

6 / 25 『すべての人に与えられる約束』（使徒2：32～40）

長谷川 望 牧師

- *ペンテコステの後のペテロの説教には3つのポイントがあった。1. 今経験している聖霊降臨の出来事は昔から預言されていたことが成就したものである。（ヨエル書 2 章）その意味は、預言者や特定の人だけではなく、主の名を呼ぶ者には聖霊が与えられ、皆救われる。2. ナザレ人イエスは父なる神が計画の内に世に送った救い主である。ダビデ王でさえ預言している。（詩編 16 篇）その証拠に彼は死からよみがえった。私たちはその証人である。3. あなたがた（ユダヤ人たち）がこの救い主イエスを十字架につけて殺した。
- *説教を聞いて人々は「心を刺され、どうしたらよいのか」（使徒2：37）という気持ちになった。罪の意識がはっきり現れたのである。イエスを神の子、救い主として受け入れない者は、皆「イエスを十字架につけたもの」として神は扱われる。説教しているペテロでさえ、3度もイエスを知らないと言った。私たちも同等である。神のさばきから逃れるためにはどうしたらよいか。ペテロの答えは2つ。
- *「悔い改めなさい」社会的、道徳的な罪を犯したことに對して告白して赦しを乞うことは勿論であるが、「悔い改め」の根本的な意味は、生き方を自分中心から神中心に方向転換することである。もう一つは、「イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい」。ただ信じているだけでは救われない。悔い改めて新しい生き方を実行し、バプテスマを受けて神と人の前で告白することが求められる。信じていることの具体的なしるしとしての行いがこの二つのことである。
- *救われるとどうなるか。神のこどもとして扱われるようになり。「**そうすれば賜物として聖霊を受けるでしょう。**」（使徒2：38）聖霊が私の中に住み、私をきよめ、神の喜ばれる方向に向かって生きることができるようになる。そして、「**なぜなら、この約束は、あなたがたと、その子どもたち、ならびにすべての遠くにいる人々、すなわち、私たちの神である主がお召しになる人々に与えられているからです。**」（2：39）今、ペテロの説教を聞いている人達だけでなく、その子孫たちにも、すなわち時代を超えて世の終わりまで続く約束である。また、説教を直接聞かなかった人たちにも、すなわち空間を超えてこの救いの約束は与えられる。事実今ここにいる私たちにも与えられている。「**神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。**」（1テモテ2：4）